

丹生ダム周辺のクマタカについて

副島猛

丹生ダム建設所のホームページで公表されている

『丹生ダム周辺におけるイヌワシ・クマタカの繁殖活動について（平成19年5月23日  
<http://www.water.go.jp/kansai/niu/html/topics/moukinrui6.html>）』

によると、周辺に生息する7つがいのクマタカのここ12年間の繁殖状況は次のとおりである。

平成6～7年、4つがい成功  
平成7～8年、2つがい成功  
平成8～9年、1つがい成功  
平成9～10年、4つがい成功  
平成10～11年、1つがい成功  
平成11～12年、3つがい成功  
平成12～13年、3つがい成功  
平成13～14年、2つがい成功  
平成14～15年、1つがい成功  
平成15～16年、2つがい成功  
平成16～17年、1つがい成功  
平成17～18年、0つがい成功

これによると、当初は4つがいの繁殖も可能であったが、最近の5年間では最大でも2つがいしか成功しておらず、平成17～18年にはとうとう繁殖はすべて失敗するという、危機的な状況に陥っている。本来ならば、すぐにでも積極的な保護に乗り出さなければならないところである。

ダム周辺の工事用道路工事が着手されたのは平成7年3月のことであり、『丹生ダム建設事業について（第71回委員会 河川管理者提供資料1-4）』には、「道路工事による一時的な繁殖率の低下が考えられる」と記されているので、これはある程度、予測されていた事態かもしれない。しかし、繁殖率のここまでの低下（0）が予測されていたであろうか？ さらに本格的な工事が着手されれば、どのようなことになるであろうか？

「モニタリングによる状況把握」は状況に応じた臨機応変な計画の変更・中止を伴ってこそ意味のあるものであり、『丹生ダム建設に伴う自然環境への影響について（第64回委員会 河川管理者提供資料1-5-2）』においても、「繁殖状況に応じて道路工事工程の調整を行う」と唱われている。現状ではそれがなされているとは思えない。